

第三海兵隊遠征軍指令官・在日米軍沖縄地域調整官 ジェームス・ピアマン 殿  
沖縄防衛局長 小野功雄 殿  
防衛大臣 岸信夫 殿  
内閣総理大臣 岸田文雄 殿

改憲・戦争阻止！ 大行進 沖縄

### 中国侵略戦争の準備とそれに伴う新型コロナウイルス感染拡大に抗議する申し入れ

昨年4月の日米首脳会談以来、日米政府による中国への侵略戦争準備が急速に進み、沖縄をはじめ日本全土で戦争に向けた大規模な軍事演習が行われています。昨年11月に沖縄でオスプレイが住宅地に水筒を落下させ、12月には青森県の住宅地近くに米軍のF-16戦闘機が燃料タンクを投棄するなど米軍機による事件・事故が多発しています。昨秋以来、コロナ下にも関わらず、日米の共同軍事演習が繰り返され、日本政府が米本土からの部隊移動に検疫・検査をしない「フリーパス」を与えたことにより、日本全土で米軍経由の新型コロナウイルスの感染拡大「第6波」が起きています。

私たちは、中国侵略戦争の準備とそれに伴う新型コロナウイルスの感染拡大に強く抗議します。

1月17日、岸田首相は施政方針演説において、「岸田政権の最優先課題は、コロナ対策です」と語りながら、肝心の米軍への対応は「在日米軍の駐留に関わる保健・衛生上の課題に関し、地位協定に基づく日米合同委員会において、しっかり議論する」と語るのみでした。これは何もしないと言っているのに等しい発言です。2012年の米軍機オスプレイの日本への配備の際に、日米合同委員会の合意事項で周辺住民に被害を与えないという約束がありましたが、オスプレイは部品落下や低空飛行、墜落事故など周辺住民に被害を与え続けています。日米合同委員会での議論など何の意味もないことは明らかです。

岸田首相は、「いわゆる敵基地攻撃能力を含めあらゆる選択肢を排除せず現実的に検討します。（中略）スピード感を持って防衛力を抜本的に強化します。」「島しょ防衛力向上などを進め、南西諸島への備えを強化します。」と語るなど中国侵略戦争への準備を昨年にもまして進めていくと明言しています。「（普天間基地の）辺野古への移設工事を進めます。」とも語り、戦争準備の一貫として新基地建設を進めようとしています。

これに先立つ1月7日の日米安全保障協議委員会（2+2）での共同文書では、南西諸島を戦場化する日米共同作戦計画を念頭に「緊急事態に関する共同計画作業についての確固とした進展を歓迎した」と明記しました。

岸田首相は、改憲・戦争が最優先の政治がコロナ感染拡大を引き起こしたにも関わらず、一切反省することなく、昨年にもまして戦争の準備を進め、鹿児島や沖縄本島を含む南西諸島を戦場にしようとしています。

今、沖縄で起きていることは、1945年に日本軍が沖縄戦遂行のために八重山諸島の住民をマラリア有病地帯に強制疎開させたことで、当時の人口約3万1千人の過半数がマラリアに感染、3600人以上が命を落とした「戦争マラリア」の状況と酷似しています。

「軍隊は住民を守らない」という沖縄戦の教訓が揺らぐことのない真実であることは、現在も共同軍事演習を行う米軍と自衛隊の姿をみれば明らかです。

一握りの資本家のために多くの労働者民衆を犠牲にする戦争には絶対反対です。

以下の通り要請します。

1. すべての米軍基地を今すぐ閉鎖すること。
2. 基地労働者・地域住民の医療と生活を全面的に保障すること。
3. 中国侵略戦争のための基地機能強化、部隊移動、演習、日米共同訓練を中止すること。
4. 辺野古新基地建設を中止し、全ての基地を撤去すること。

以上